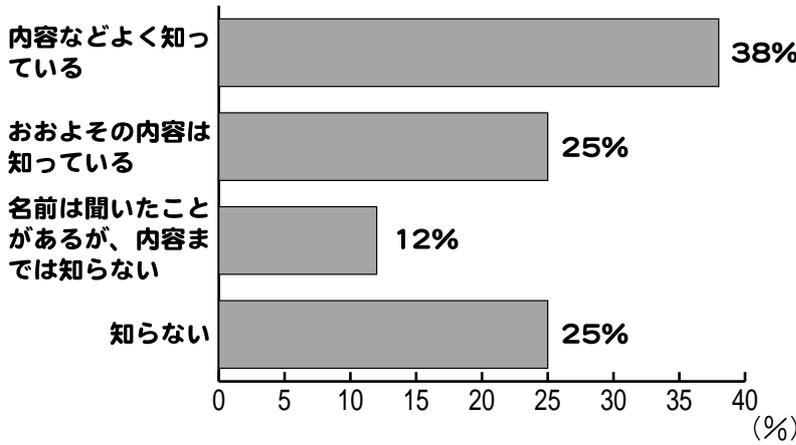


# 市政モニターからの提言⑨

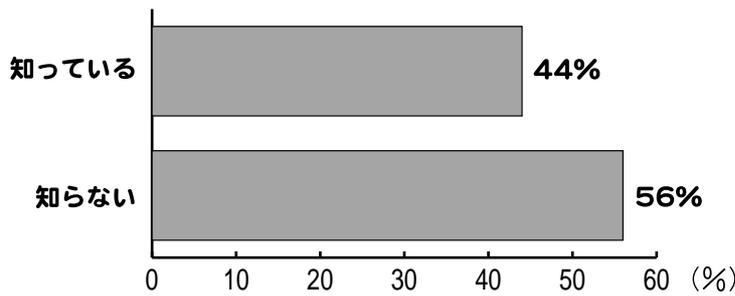
## 21世紀は人権の世紀！

市政モニターの皆さんに「人権問題」について、アンケート調査を実施したところ、多くのご提案やご意見をいただきました。その主な内容について、お知らせします。

南国市では「なんこく男女共しかがやきプラン」を平成14年3月に策定し市内全戸配布をしましたが、ご存じですか？



「なんこく男女共しかがやきプラン」は本年4月に全戸配布しましたが、「知らない」が25%いるのは、少々残念な結果です。「内容などよく知っている」が38%、「おおよその内容は知っている」が25%で、約6割の人がある程度知っている現状です。今後は、プランの周知に努力するとともに「なんこく男女共しかがやきプラン」の効果的な推進を図ることを目的に本年6月に立ち上げた「なんこく男女共しかがやきプラン推進懇話会」の活動に期待をします。



「人権教育のための国連10年」高知県行動計画のなかでは「同和問題・女性・子ども・高齢者・障害者・HIV感染者等・外国人」の7つの項目が、身近な課題への対応として盛り込まれています。全てを記憶することは、なかなか困難と思われるが、「知っている」が44%ありました。

あなたは、高知県行動計画に身近な人権課題として、具体的な項目が例示されていることを知っていますか？



3月に策定された「なんこく男女共しかがやきプラン」

### 人権と共生の時代⑬ 人権教育シリーズ

#### 人権保障は 生きがい保障

今世紀は人権・環境・平和・共生の世紀といわれています。中でも「人権」がこの世紀を切り開いていくキーワードです。

では、「人権」ってどんなものなんでしょうか？「人権を保障しましょう、尊重しましょう」といっても具体的な行動のイメージが湧かないですね。そこで自分なりに自分の言葉に翻訳して生活に反映していくこともいいのではないのでしょうか。

ある人は「生きがい」と言い直したら分かりやすいといえます。

この「生きがい」という言葉はちょっと他の国にはない言葉だそうです。この言葉の意味するところは深くまで広げて、改めて言葉で説明するのは難しいのですが、幸いなことに私たちはこの言葉の意味を分かり合えます。

そこで「人権」という言

声 アンケートのご意見から

市政モニターの皆さんから、たくさんの貴重なご意見をいただきました。

その一部を紹介します。

同和問題を考えるとき、第1に人間は生まれながらに皆平等である。しかし、結婚問題は特に昔風の考えが残っている。

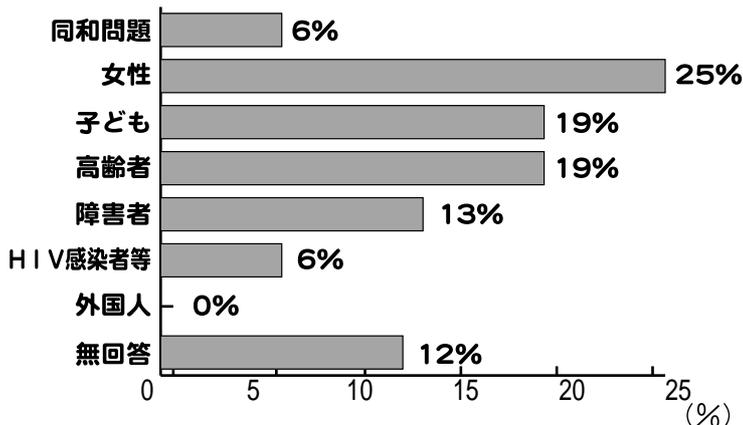
学校教育の中で、男性・女性が共に考えていくことが重要と思う。

子どもは、まわりの大人から守り・愛され・育てられなくてはいけないと思うが、昔は当たり前に行われてきたことが今は意識してしなくてはいけない。その為にも大人が自信を持ち、前向きに生きよう心がけたら良いと思う。

日本国憲法の精神を正しく理解し、男女共同参画問題に関する法律、子どもの権利条約、その他子どもに関する条約、法律を全ての人々が勉強すること。そのために分かりやすく解説したパンフやリーフレットを配布し、話し合いの場をたくさんつくるのが大切だと思う。

地域ぐるみで助けあうことがまず大切。地域で単身者や年配者見回り組の設置をしてみては。

障害者の雇用の確保



【人権イメージキャラクター】  
人KENあゆみちゃん  
&  
人KENまもる君

女性問題が、25%で一番関心が高く、子ども、高齢者なども高い関心が示されています。  
なお、当市は留学生など外国人が多い環境ですが、1つ選択という条件の中で、外国人についての問題を選択した方はいませんでした。

あなたが人権問題の中でもっとも関心のあることは次のうちどれですか？ 1つ選んでください。

今回の調査結果を踏まえ、市では、同和問題、女性問題をはじめ、さまざまな人権課題に対し啓発活動を通じ、あらゆる差別の解消に取り組んでいきたいと考えています。  
差別のない明るい社会を市民の皆さんと一丸となり築き上げていきたいと思えます。



お問い合わせは  
じんけんセンター  
(880・6570)まで

市政モニター制度は

南国市総合計画に基づき「市民が参画するまちづくり」を進めるために、実施しています。

葉をこの「生きがい」という言葉に置き換えてみましょう。そこに、どんな世界が見えてくるでしょうか？一人ひとりの「人権を保障する」とは一人ひとりの「生きがいを保障する」となりますし、「高齢者の『人権を守ろう』」は「高齢者の『生きがいを守ろう』」と言うことになります。なんだか、その為に自分はどうなことをすればいいのか少しイメージが湧いてきそうです。

人が「生きがい」を感じるときはどんなときでしょうか。やっぱりその一番は、「他人(ひと)の役に立てた」「他人(ひと)から頼られたり、誉められた」等々、「人から認められた時」ではないでしょうか。そこから「自分への自信や誇り」(自尊心)が芽生えてきます。この事が「生きがい」を支える大きな力なのではないでしょうか。

「生きがい」は他人(ひと)との関わりの中から生まれてきます。一歩でも二歩でも私たちの身のまわりを「承認や励まし」のまなざしをいっぱいにしていく歩みをしていきたいですね。